

第1回青森駅を中心としたまちづくり有識者会議 会議概要

1 開催日時 平成27年1月28日(水) 10:35~12:05

2 開催場所 青森国際ホテル 5階 芙蓉の間

3 出席者

【委員】

赤石佳昭、伊香佳子、石田賢哉、大津千鶴子、加藤博、
北原啓司(座長)、木村幸雄、齋藤道法、千葉功己、珍田裕之、
西秀記、森内忠良、脇坂隆一 以上13名(欠席なし)

【事務局】

副市長(加賀谷久輝)、都市整備部長(工藤雅史)、
都市整備部理事(櫻庭信也)、都市整備部次長(米谷智)、
都市整備部参事都市政策課長事務取扱(石郷昭規)、
都市整備部都市政策課副参事兼都市拠点整備室長(中村敦)、
都市政策課主幹(武田泰孝)、
都市政策課都市拠点整備室主査(東條英哲、棟方康晴、柿崎仁馨)

4 第1回会議

「青森駅を中心としたまちづくり有識者会議実施要綱」第3条第3項の規定により、北原座長が会議を進行。

北原座長	<p>平成23、24年度に、皆さんで議論した検討委員会というものがあった。</p> <p>その後、色々と調整するところがあり、一番大きいのは、やはりJRとの話もあるし、駅だけではなく様々あり、やっとアクションを考える時期に来たということかと思う。</p> <p>「青森駅を中心としたまちづくり有識者会議」というタイトルで、有識者というのは知識ではなく、意識を持っている人ということで捉えたいと思うので、皆さんで積極的にまちづくりに対しての考えを議論できたらと思う。</p> <p>この手の会議はいつも最初の10分くらいで議長を誰にするかという形式があるが、今日は最初から私が座長になっているということになるので、早く議論したいと思うので、その意味で実質的な会議として、あまり形式に拘らずに皆さんで活発な意見交換をしていきたいと思う。</p> <p>今日は、様々な部局として出席している方は今日が初めて</p>
------	--

	<p>だという方もいるし、前回の基本計画を資料では知っていても知らない方もいるので、まずはこの会議自体は前の委員会とどう違ってどのような位置づけなのかということ。</p> <p>前回、どこまでが一様に倣って共通に意識できている部分なのかという再度の出発点を今日確認いただき、前回は委員でいた方にはその後の進展の中で、今日はどの辺まで、どの辺からスタートするのか、決して前に戻ることはないと思うので、そのあたりを確認すれば良いという気がするのですが、それほど長くないが、自由に意見をいただきたいと思う。</p> <p>では、次第に従って、今日は議題としては、二つ。</p> <p>一つは、この会議自体の開催趣旨。</p> <p>もう一つは、「青森駅を中心としたまちづくり基本計画」。これが、平成 24 年の 2 月に出されている。この説明をまず 1 回していただいた後で、一任という形で分けていきたいと思うが、それぞれの意見や質問をいただきたいと思う。</p> <p>では、事務局の方から、一括説明ということでお願いします。</p>
--	---

(1) 青森駅を中心としたまちづくり有識者会議の開催趣旨等について

〔配布資料：資料 1「青森駅を中心としたまちづくり有識者会議について」〕

(2) 青森駅を中心としたまちづくり基本計画について

〔配布資料：参考資料「青森駅を中心としたまちづくり基本計画」〕

当日は、参考資料「青森駅を中心としたまちづくり基本計画について」(スライド)を用いて説明。

配布資料に基づき、(1) (2) について事務局より一括説明。

<p>事務局 (中村副参事)</p>	<p>資料 1「青森駅を中心としたまちづくり有識者会議について」</p> <p>有識者会議の趣旨について説明するが、青森市はまちづくりの基本的な考え方を「人と環境にやさしいコンパクトシティ」とし、公共交通の充実や中心市街地をはじめとする都市拠点の機能の充実に向けた取組などを進めており、今から 3 年ほど前の平成 24 年 2 月に、青森駅とその周辺地区の一体的なまちづくりの方向を示す「青森駅を中心としたまちづくり基本計画」を策定し、本市の顔である青森駅周辺地区の整備に取り組むこととしている。</p> <p>この計画の内容については、青森駅の東口側と西口側を結ぶ自由通路と駅機能及び都市機能の一体的な展開とともに、東口駅前広場に加え、西口における交通結節機能などの整備に重点的に取り組むこととするものであり、第 2 期青森市中</p>
------------------------	---

心市街地活性化基本計画の核的事業として位置づけられている。

この取組については、計画策定後から、関係者間と協議・検討を続けてきたところであるが、昨年 8 月に、その進め方について調整が図られたことから、翌 9 月に開催された平成 26 年第 3 回青森市議会定例会において、自由通路等の設計等に係る経費等について補正予算案を提案し、議決いただいたところである。

その後、基本協定締結に向けて、関係者間において協議を進めているとともに、今般、青森駅及び駅周辺地区の一体的なまちづくりについて、関係する団体等有識者の皆様から意見を伺うための「青森駅を中心としたまちづくり有識者会議」を開催しようとするもので、本会議の構成については、計画を策定する際に組織された「青森駅を中心としたまちづくり基本計画検討委員会」のメンバーの方々を中心に、皆様方に参画いただくことになった。

また、本会議の開催については、平成 28 年 3 月までの間に、本日を含めて 6 回程度開催する予定としている。

本会議において、委員の皆様には基本計画の実現にあたって市が提示したコンセプトやデザインに関する意見と、青森駅を中心としたまちづくりへの市民参画に関する意見をいただきたいと考えているので、忌憚のない意見をお願いする。

参考資料「青森駅を中心としたまちづくり基本計画」

参考資料「青森駅を中心としたまちづくり基本計画について」(スライド)を用いて説明

スライド 1

皆様の方には事前に基本計画を渡しているが、本日はスクリーンで説明する。

「青森駅を中心としたまちづくり基本計画」は、青森駅を中心としたまちづくり基本計画検討委員会からの意見等をいただきながら、平成 24 年 2 月に策定し、

その構成は、

- ・序章として「なぜ、今、青森駅を中心としたまちづくりなのか」から始まり、
- ・第 1 章が「青森駅周辺地区に何が求められているか」
- ・第 2 章が「青森駅を中心としたまちづくりの基本的な考え方は」
- ・第 3 章が「どのようにまちづくりを進めていくのか」

の構成となっており、目次の次に A3 版サイズで概要版を掲載している。

スライド 2、3

計画の 1、2 ページ部分、序章になる。

序章の部分、「はじめに」の部分であるが、

- ・市では「人と環境にやさしいコンパクトシティ」を都市づくりの基本的な考え方とし、都市拠点の機能の充実に向けた取組を進めていること。
- ・本市の中心市街地は、1891 年（明治 24 年）に青森駅が開業して以来、1988 年（昭和 63 年）の青函連絡船の廃止や、2010 年（平成 22 年）の東北新幹線及び青い森鉄道線の開業による交通環境の大きな変化を経ながら、本市の発展を牽引してきたこと。
- ・多くの市民が、青森駅を中心としたまちづくりを進めることが必要であると認識していること。
- ・青森駅を市民生活と密接な交流の場としてとらえていく必要があること。
- ・鉄道施設による東西の市街地分断の解消が長年の課題であること。
- ・中心市街地にターミナル駅と港が近接する地理的特性を有していること。

などを踏まえ、平成 21 年 12 月に本地区のまちづくりに関する今後の市の姿勢及び方向等を示す「青森駅を中心としたまちづくり～鉄道とまちを育み 市民の心を元気に～」と題するいわゆる指針的なものを取りまとめ、平成 24 年 2 月に本計画の策定に至った経緯・趣旨が整理されている。

スライド 4

また、本計画の目標・役割として、北海道新幹線新函館北斗駅が開業する平成 27 年度を中期目標とし、青森駅及び駅周辺地区の一体的なまちづくりに向けた方向性を示すものとしている。

スライド 5、6

基本計画 3 ページの部分から第 3 章となる。

第 3 章では、社会環境の変化として、人口動態の予測や中心市街地の状況等について整理されており、

スライド 7

4 ページの部分になるが、今後のまちづくりに求められる視点として、

- ・集約型都市構造の実現に向けた公共交通の利便性向上な

どの取組、

- ・ユニバーサル社会の実現に向けた環境整備のほか、
- ・観光立国の実現に向けた観光地として魅力ある景観の形成、
- ・少子高齢化社会の進展を見据えた街なか居住の推進、

などが必要であると整理している。

スライド 8

計画 5 ページ部分になるが、

本市のまちづくりにおける青森駅を中心としたまちづくりの位置づけについて、青森市新総合計画においては、本市のまちづくりの基本的な考え方に「広域交流拠点」及び「人と環境にやさしいコンパクトシティ」を位置づけるとともに、都市拠点及び日常生活拠点整備の基本方向を示しており、青森駅周辺地区が位置し都市拠点の一つに位置づけられた中心市街地地区については、高次な都市機能が集積した交流拠点として、県都の顔にふさわしい地区形成を進めることとしている。

また、平成 19 年 2 月に国の認定を受けた青森市中心市街地活性化基本計画と連携を図りながら中心市街地の活性化を図っていくこととしている。

なお、現在、中心市街地活性化基本計画は、第 2 期計画となっており、平成 24 年 3 月に認定されているところである。

スライド 9

6 ページの部分になるが、交通の要衝として発展してきた青森駅周辺地区の昭和 39 年から平成 15 年までの変遷になっている。

スクリーンの方は 7 ページの方を映しているが、青森駅周辺地区の現況になっている。青森駅周辺には様々な施設が整備されてきていることがわかんと思う。

スライド 10

基本計画 8～9 ページの部分については、青森駅周辺地区の現状と問題点について、また、平成 22 年に 3,000 人を対象に実施した市民アンケートでの結果を整理している。

スクリーンは、10 ページからの部分を要約している。

「商業の要」「都市観光の要」「都市生活の要」であり、「駅と港との近接性」が高い特性を有する中心市街地に位置する青森駅周辺地区は、「公共交通の要」でもあり、市民の日常生活の中心となつてにぎわい機能を担う地区であるとともに、県内外からの来訪者を引き付け、中心市街地の活性化をけん

引するいわゆるマグネットポイントとしての役割が期待されているところであり、これら「要」にふさわしい都心機能の強化や、駅・商店街・ウォーターフロントの連続性を高めるとともに、地区一体の魅力の向上、さらには、市民や観光客が集い、にぎわいのある空間の継続的な創出などが課題として挙げられる。

これら役割と課題を踏まえ、青森駅周辺地区のまちづくりは、青森駅周辺のにぎわいを、まちの持つ魅力によって引き出し、回遊によって商店街やウォーターフロント地区へ伝え、それぞれの魅力が磨かれることにより新たなにぎわいへと広げ、更にはこれらの源流が鉄道利用を活性化させ、「駅とまちと港」によるにぎわいの連鎖を持続的に発展させていく「鉄道とまちのにぎわいの正のスパイラル化」を担うまちづくりを行っていくことを基本的な考え方としている。

そして、「青函の歴史を伝え、鉄道とまちを育み、市民の心を元気に、あおもり 駅まえ 街なか ルネサンス（再生）」を地区の将来像とするとともに、将来の地区のイメージとして、「交通の要となるまち」「交流するまち」「居心地のよいまち」「活気とにぎわいのある楽しいまち」「魅力を発信するまち」としている。

スライド 11、12

計画の12ページの部分、第 4 章では、青森駅周辺に期待される役割と課題を踏まえ、まちの将来像の実現に向け、まちづくりの基本方針を定めている。

まちづくりの視点として、

1 つに、青森市民・来訪者すべてにあずましい空間を創出する「いつでも誰にでもあずましく」

2 つに、まちづくりにかかわる多様な主体の連携・協働を進める「共に創り・育てる」

といった2つの視点。

また、まちづくりの取組方針（戦略）として、

1 つに、駅を含むエントランス空間を再構築する「人とまちをつなぐ」戦略

2 つに、駅・商店街・海を結ぶ回遊・連携軸の強化を図る「駅・まちと海をつなぐ」戦略

3 つに、新たな魅力を創出する都市機能の強化を図る「人と人をつなぐ」戦略

の3つを戦略としている。

スライド 13

基本計画の 20 ページの部分であるが、20 ページの下段の図の部分がスクリーンに映し出されているが、まちづくりの基本方針に基づくまちづくりの空間構成となる。

「つなぐ」戦略を踏まえ、様々なつながりを具現化するため、まちの求心力を高める複合都心核を形成するとともに、複合都心核を中心とした歩行者・自動車ネットワークを形成することとした。

スライド 14

21 ページ部分が全体土地利用構想となっている。

- ・水色ゾーンがウォーターフロント地区
- ・ピンク色ゾーンが駅東口の新町・古川地区
- ・緑色ゾーンが駅西口の篠田地区

となっており、この 3 つのゾーンの結節部分であるエントランス空間、オレンジ色の破線部分となっており、このエントランス空間に複合都心核を配置する構想となっている。

スライド 15、16

計画 22 ページから第 4 章となる。まちづくりの基本方針を踏まえ、ウォーターフロント地区、駅東口周辺地区及び駅西口周辺地区を一体化する役割を担う「エントランス地区」、すなわち、青森駅等を中心とした地区の整備について、また、計画実現に向けた取組について整理している。

まず、エントランス地区の整備についてであるが、「エントランス地区」については、本州と北海道を結ぶ拠点の役割を担った港と駅とまちに近接するターミナルであること、また、多くの人が集まる活気とにぎわいの歴史や、これからも引き続き、そうあってほしいとの市民の声を踏まえ、地区整備の方向性を「ひと まち 海をつなぐ 元気都市のにぎわいターミナル」とし、エントランス地区を含む青森駅周辺地区共通のコンセプトとして、

- ・様々なものを「つなぐ」空間形成
- ・相乗効果を生み出す一体的なまちづくり
- ・本市固有の特性や環境への配慮
- ・地区特性に応じた機能分担

の 4 つに整理している。

スライド 17

計画 24 ページに図が記載されているが、この 4 つのコンセプトを踏まえ、エントランス地区においては、

1 つに、駅機能、都市機能、東西回遊軸を一体的に展開し、まちの求心力を高める複合都心核を形成する「青森駅複合拠

点プロジェクト」

2 つに、東口・西口を機能分担し、一体となって多様な交通手段に対応できる交通ターミナルを創出する「総合交通ターミナル充実プロジェクト」

この 2 つを重点プロジェクトとして展開することとしている。

この図については、重点プロジェクトと周辺機能との連携イメージ図となっており、青森駅周辺地区を青森港方面から見た図となっていて、

- ・濃紺部分が東西回遊軸
- ・オレンジ部分が駅機能
- ・ピンク部分が都市機能
- ・赤線が歩行者動線
- ・青線が自動車動線
- ・緑破線が景観軸

と整理している。

スライド 18

計画 25 ページ部分、青森駅複合拠点プロジェクトになる。

このプロジェクトでは、駅機能（駅舎）、都市機能（都市サービス施設）、東西回遊軸（自由通路）を一体的に展開するとともに、自然に人やにぎわいが集まる陽だまりのような「人だまり空間」を創出し、中心市街地活性化を牽引し、まちの求心力を高める複合都心核を形成することとしている。

スライド 19

駅機能の整備については、

- ・市民が誇れる「私たちの駅」となるよう、多くの来訪者を迎える温かいおもてなしの空間であるとともに、市民にとっての心のふるさととなる懐かしい空間形成を推進し、
- ・また、駅や鉄道の利便性向上のため、わかりやすい歩行動線の確保や、鉄道間の乗り換え利便性の向上を推進するとともに、
- ・ユニバーサルデザインの考え方を踏まえたバリアフリーへの対応を推進することを整備の基本方針としている。

東西回遊軸（自由通路）の整備については、

- ・東西市街地を結節する円滑な移動が図られるよう、周辺施設や商店街との回遊性を考慮し、迂回感のない、駅と直結した自由通路機能を整備し、
- ・誰もが安全・安心・快適に移動できる回遊空間を形成す

るため、快適な歩行空間や滞留空間を確保するとともに、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえたバリアフリー化に取り組むほか、

- ・周辺の景観を意識した開放感のある歩行空間を確保することを整備の基本方針としている。

さらに、都市機能については、官民の連携による多様な都市機能を整備することとし、周辺施設との回遊性等に配慮しながら、民間主体での商業・サービス施設と行政主体での公共公益施設の複合化によって、にぎわいの相乗効果の創出に取り組むことを整備の基本方針としている。

なお、商業・サービス施設については、周辺の既存施設と連携し、駅利用者や市民への生活サービス機能の整備を推進するとともに、公共公益施設については、駅周辺の集客施設との連携を基本としながら、将来のニーズ変化に対応できる柔軟性を確保するなど、施設利用者の視点に立った検討を行ったうえで、例えば、子育て支援、体験学習などの次代を担う子どもを育む機能ですとか、NPO 活動支援など市民が交流活動する拠点機能などの整備に取り組むこととしている。

スライド 20

計画 26 ページ部分になるが、2 つ目の重点プロジェクトである「総合交通ターミナル充実プロジェクト」についてである。このプロジェクトは、青森駅へのアクセス性を高めるため、多様な交通手段に対応する交通ターミナルの創出を図ることとしている。

東口駅前広場と西口駅前広場における交通結節機能について、東口駅前広場においては、総合交通ターミナル機能の充実・強化を検討するほか、ウォークブルタウンの起点としての機能を強化するため、回遊支援の仕組みづくりについて検討すること。

また、西口駅前広場においては、多様な交通手段による青森駅へのアクセスに対応するため、東西回遊機能と一体となって東口を補完する交通結節機能の整備に取り組むほか、安全・安心・快適に利用できる歩行者空間の創出や青い海公園（柳川地区）への回遊性の向上、さらには、長期目標ではあるが、東西アクセス自動車動線の整備推進などを整備の基本方針としている。

スライド 21

計画 27 ページからの部分、最後に、計画実現に向けた取組についてであるが、

	<p>基本方針に定めた「まちを共に創り・育てる」視点を踏まえ、協働のまちづくりを推進していくため、市民等のまちへの関心や愛着を醸成し、市民等が継続的に関与しながらまちを育てていく取組について、各々の段階に応じて推進しながら、基本計画の実現に取り組んでいくこととしている。</p> <p>今後、どのように市民の皆様がこの事業に関わっていただくべきか、市民参画の手法についても委員の皆様から意見をいただき、市民の機運醸成を図るとともに、まちづくりの担い手の育成へとつなげていきたいと考えている。</p>
--	---

事務局説明に対する質疑応答・意見交換。

<p>北原座長</p>	<p>資料 1 の方で、この会議の趣旨について、そして 2 については、おさらいになるが、前回出されている基本計画、どのようなことが書かれていたかということについて見ていただいた。</p> <p>今日はこの資料を見ながら、この段階で聞きたい部分、あるいはこの会議でどこまで踏み込めるのか、あるいはどういうところをこれから議論していくことになるのか。前段で決まっていることで、既に決まっている。まだ、未確定の部分、その辺の確認を含めて今日は、初めに皆さんから意見をいただくとと思うので、次回はおそらくそれぞれの検討になると思う。</p> <p>今回は、今日は 1 月ということだが、最初の予定にあったように、これは年度を越えて進めていくことが決まっているので、年度末にさっさとするのではなく、きちんと来年度に向けて皆さんに協力いただきたいと思っているので、よろしくお願いしたい。</p> <p>では、最初に今日は、基本計画の内容の前に、資料 1 で説明いただいた、本会議自体の趣旨、そのあとについて、確認したい部分や質問・意見をいただきたいと思うが、どなたでも結構なので、手を挙げていただくと、マイクがそこに行くのでよろしく願います。</p> <p>趣旨についてはこれでとりあえずよろしいか。委員会でやって計画が出来て終わってしまうのではなく、それをきちんと動かしていくために、今回は一步踏み込んだ議論をしたいということの趣旨で集まっていたいただいているので、それに賛同いただければ、この趣旨については、とにかくきちんとするということを確認した上で、内容についての意見、意見交換にいききたいと思うが、それでもよろしいか。はい。</p>
-------------	--

	<p>では、この趣旨については、あと、内容について意見の中でも関係してくるかもしれないので、今日、説明していただいた 24 年 2 月に出している「まちづくり基本計画」。これに関しての単純な質問、あるいはここから発展していくにあたっての我々がどこまで議論できるかという内容、あるいはどこを共通の出発点として、今後の議論の時に進んでいくのか、あるいはどこをゴールにするのか、そのあたりについて、忌憚なく意見をいただきたいと思う。</p> <p>どなたでも結構なので、気づいたところでページに関係なく話をしていただきたい。挙手をお願いしたいと思う。</p> <p>どうか。個別の小さい話だけでなく、これを進めていくためには、こういうことをきちんと考えながら進めていくべきではないかといった今後の私達が議論していく上での、基本的なスタンスの確認のような意見でも結構である。</p> <p>では、加藤さんからどうぞ。</p>
加藤委員	<p>先程、座長に言われているように、知識ではなく、意識のある人達の会議だということで少し安心した。</p> <p>そういう意味では、私は前の検討委員会には全く出ていないので、どういう話し合いがされたのか全くわからず、今回「駅を中心としたまちづくり基本計画」、平成 23 年度いわゆる 24 年 2 月に出されたものを何度か見直してみた。</p> <p>その上で、最近の新聞報道等には駅を中心としたまちづくりに関しては、東西通路と駅舎について、ある程度、デザイン設計の予算を議会で承認されたとある。</p> <p>都市機能については、それは次の段階というか議論を全くされない、抜かすというようなことが、新聞で当時はそういう認識を受けた。</p> <p>この委員会で駅機能とか都市機能をどんどん議論して構わないのかどうかということがまず一つ。</p> <p>続けて質問する。</p> <p>「人 まち うみをつなぐ」、このコンセプトは私、素晴らしいものだと思っている。人とまちと海をつなぐのに都市機能の議論をしなかったら、全くコンセプトが実現不可能になるのではないかという思いが一つある。</p> <p>それからもう一つは、都市機能や商業機能など、色々議論する時に、私は今、青森市をこれ以上の売り場面積は全く増やす必要は無いと思っている信者の一人なのだが、そういう意味では JR との関係、JR との話し合いがこれから最も大事になってくるのではないかと思うが、特にラビナの関わりを</p>

	<p>どうするのかということも大変大事なことはないかと思う。ラビナも大分古く、いずれリニューアルしなければダメな駅ビルであるので、あそこと一体になったこの駅機能を議論できないものなのかどうか、または個々に有識者会議の実施要綱の中に有識者会議のメンバーでなくても、時と場合によって、市長が認めれば、ゲストとして呼んで色々な話を聞けるということも書いてあるので、是非 JR や JR の都市商業施設の方のメンバーの意見も聞いたり、また JR とのコンタクトを取りながら、色々話し合いをしていくことがものすごく大事なことはないかと思う。</p> <p>もう一つ、市民の皆さんにこの有識者会議でも良いし、駅を中心としたまちづくりが今、市が先頭を切って、一生懸命、民間の各組織の方々と色々な話し合いをしているのだというムーブメントをどんどん上げていかないと、市民の人は、「本当にやるのか、やらないのか。」などここ 2、3 年の間に駅のことは多分皆さん忘れていると思う。</p> <p>そういう意味で、市民のムーブメントを高めるために、やはり何かの手段を講じる、例えば有識者会議が終わるたびに、座長の方から、記者の方にこういうことを今議論してやっているのだということを経営開示していくというようなことも必要になってくるのかと思う。</p> <p>以上、3 点である。</p>
北原座長	<p>3 点あった。私の方で答える部分もあるが、まずは事務局から 3 つ目まで含めて、場合によっては、今ははっきり決まっていなくてもあると思うので、確定したことでなくても、今後の可能性も含めて答えていただきたいと思う。場合によっては、今日は齋藤さんに来ていただいているが、今のところで言えるところで結構だが、今の質問に関してどうか。まず事務局から 3 つ答えていただきたいと思うのでよろしくお願いする。</p>
事務局 (中村副参事)	<p>加藤委員からの質問 3 点に順次答えていく。</p> <p>まず 1 点目、駅の機能などに加え、都市機能の部分等についても議論の対象として良いのかという質問だったと思うが、これに関しては当然、都市機能の部分に関しても皆様からの意見をいただきたいと思っているので、よろしくお願いする。</p> <p>2 点目の都市機能の部分に特に JR、ラビナとの関係を踏まえて一体的な議論をしていきたいという話だと思うが、それに関しては、JR の方から説明していただきたいと思うが、我々</p>

	<p>としてはあくまでも、JR の窓口は JR 東日本盛岡支社ということで、これまで協議を続けてきているので、まずは JR 東日本盛岡支社と話を詰めていきたいと考えている。</p> <p>3 点目最後になるが、市民の機運醸成が必要だということだが、まさしく話されたとおりだと思っており、計画を作ってからおよそ 3 年経ってしまったということもあり、市民の皆様が 3 年前と比べてどうだったのかという部分は確かにあると思うが、これから事業を進めていくに当たって、青森市民の皆様の機運醸成を図っていききたいと当然、行政としても思っているのので、その辺の手法については皆様からの意見をいただきながら、取り組んでいきたいと考えている。</p>
北原座長	<p>3 つ目の質問に関しては、加藤さんから 1 回ごとに私が記者に話すといったことを言われたが、基本的にこの会議は公開になっている。</p> <p>これはホームページにその後、しっかり載せていただくということで何も隠すことはないし、もちろん個人的なプライバシーに関する事、あるいは金額に関する事、ちょうど、今、ある種のコンペが動いているので、それに関係することは出すわけにはいかないの、基本的にはオープンでいこうという話だと思う。それで進めさせていただきたいと思うし、前回の検討委員会の最中、皆さんに知ってもらいたいのだと、ここに集まっている方々の意見だけではもったいないではないかという話があったので、途中シンポジウムなどもやっていた。</p> <p>皆さんの意見を広く聞くような機会を 27 年度も含めて、皆さんがアドバイスをしながら、少し、皆さんに仲間を何人も連れてきていただけるような拡大ワークショップなど、フォーラムなど行ってみてはどうかという気もする。</p> <p>前回は、指針の前の 1 月にワラッセで行っていて、残念ながら基調講演の先生が、JR が止まって来られなかったということで、私が代わりにもし（基調講演の先生が）来たら、このような話をしたのではないかというよくわからない講演をさせられてしまったのだが、（基調講演する予定だった）篠原先生はその話を「大体そう言いたかった。」と話していたが、色々その後も動いているが、駅のホームについて、あるいは駅の周り、何しろ我々も青森駅を中心としたまちづくりであるので、色々な多面的なことをしていくために、加藤さんが話していたように、少しこういう人の話を聞いてみたいということについては、積極的に私のほうでもお願いして、市と</p>

	<p>協議しながらお願いしていくということはしたいと思う。</p> <p>ただ、先程、質問で、ラビナのこともそうだが、こればかりは、こちらがどうのこうのではなく、先程、老朽化しているという話もあったが、今後どのようなこと、今の段階で、JRで考えているのか、今の所はまだ検討に入っていないのかということ、今日言えるようなことがあったら、少しその関係で、JRにも決定事項でなくて結構だが、先程の加藤さんに対しての、今の市役所の言っていることに対する補足的なことで、コメントをいただきたいと思うが、齋藤さんどうか。よろしく願います。</p>
齋藤委員	<p>基本計画の24ページにあるので、ラビナの話もあるが、全体の中での位置づけになって、その中で、わかる範囲で説明させていただければと思う。</p> <p>先程、図でいくと黄色部分のラビナという話が出てきたが、おそらく今後進めていく東西軸があって、都市施設があって、そのように並んでいる中で、ラビナが存在しているが、今後やはり駅周辺にアウガもあるし、ねぶたの家ワッセやA-FACTORYなど色々な部分がある。その中で、今後考えていくにはやはり、想定されるニーズが駅周辺にどれだけあるのかというところに対して、どう対応していくのかというところを総合的に考えて判断していくとことであると思う。</p> <p>ラビナについては、当然東西の回遊軸があるので、ラビナも含めて、アウガも含めて、周辺一体として、回遊性が増えていく、利便性が増えていくという形で、今後やはり活性化していくには、今後考慮しながら検討していくことが必要ではないかと思う。</p> <p>ただ、ラビナの内装をどうするかとか、古いなどという話があるが、その辺は、今の段階で当社では検討していないので、現段階では私は情報を持ち合わせていない。</p>
北原座長	<p>何をどうするかということよりも、もしこのような企画が進んでいくと、当然どうつなげるか、そこから動線をどうアウガの方に持っていくかなどというようなことについて、あとでつなげるのではなく、そういう時に一緒に考えなければいけないことは十分あるということまで言えるということである。</p> <p>それが新築になるのか、あるいはそのような設備をつけていくかという話になったり、どこでつなげるかということについてもまた皆さんの議論もある。</p> <p>例えば、前にデッキの話があった。あるいは冬だから地下</p>

	<p>が良いのではないかという話もあった。そうすると建築と構造的なこと、まだまだ色々なバリアもあるだろうから、我々は駅を中心としたまちづくりということで今回集まっているので、建物をどうということだけではなく、このつなぎ方を想定して、やっておかないと二度手間になったりする。つくったけど、あとでつなげられないとなるので、そういう議論を皆さんとしていこうということで、JRとしてもそういう意味での軸線のニーズというか、それは認識されているという答えが今日言えるのはそれぐらいだという話でよいか。</p> <p>まずは今日を出発点として、共通認識で進めたいと思うので、単なる東西の自由通路が出来るとかそういう話だけではなく駅を中心としたまちづくりに必要な、何度も先程出てきたキーワード、つなぐということに対しては、色々と議論していく方向性をここで共有したいと思う。</p> <p>他にどうか。どんなことでも今日は1回目なので結構である。西さんどうぞ。</p>
西委員	<p>私は、前回の基本計画の検討委員会にも参加をさせていただいていて、あれからもう3年経つのだという気持ちであるが、その時の最終回の時の整理をさせてもらいたいが、私の認識の中では、この基本計画を承認する際に、この計画にあるとおり「人 まち 海をつなぐ元気都市のにぎわいターミナル」、「海の見える北の駅」というものを実現するために、さらに具体的な検討をしていくという話になっていたと思う。</p> <p>その中では、各機能のどこにどういう機能を持たせるか、設置位置の問題であるなど都市機能の内容を含めて、ハード、ソフト両面に渡って自由な議論をするということで閉じていたと思うが、その認識でよいのかということを確認させてほしい。</p>
北原座長	<p>ハードもソフトを含めて、どういう内容になっていくなどはともかくとして、そういう機能を集積させること、あるいは分散させること、様々考えながら、狭い話でなくて、青森市としての基本的な方針を進めていくというラインでよいかということだが、どなたに答えいただいたらよいか。</p>
事務局 (工藤部長)	<p>基本的には西さんが話していた考え方でよいかと私どもも考えている。</p> <p>計画を作ってから、確かに平成24年2月からであるので、何年か経過しているが、その間、私どもとJR、関係者ということでこれらを進めていく上での協議を色々続けてきた。</p>

	<p>従って、今日は皆さんには提示できないが、今後その有識者会議が進んでいくに従って、先程、西さんが話された現時点で、自由通路をどこの位置を想定しているといったことを提示しながら、意見を伺っていきたいと考えている。</p>
西委員	<p>もう一つあって、この委員会ということになるのかどうか別として、現段階で、作り上げておくべきだと思うのは、この整備が最終的にどういう形になるのかという、最終完成形を議論してつくっておく必要があるのかなど、当然そこには都市機能がどうなるということもあるし、北原先生が話したみたいに、通路をどのように上を通す、下を通すなど、そういうことも含めて全体像として、どうなるのか、ということまで、つくっておくべきだと思っている。</p> <p>それを出せば、おそらく中心市街地活性化基本計画の中の中核事業の位置づけであるが、その計画の中でどういう位置づけになって、どういう効果が得られるのかということも一般の方々もわかりやすくなるのではないのか、民間の投資欲も高まっていくと思っている。</p>
北原座長	<p>今の件については、座長として私が話したいと思うが、基本的にこの会議は有識者、理想的に青森の姿として、このようにしていくべきだと議論しなければいけないと思う。その最終的な像として、このような街がふさわしいというようなことをそれぞれの立場から、そして工夫できることは工夫して持って行きたいとその目標像を掲げていくのがベストだと思う。</p> <p>しかし、当然、色々な意味で、一番わかり易いのはお金もそうだがここまで持っていけないけれどもという話で、短期の目標として、あるいは長期ではここまで持っていきたいが、今回ここまでしかつなげない。それでも構わないと思う。</p> <p>我々が出したいのはあくまでも、最終的にどのような青森の駅前の姿を見たいかということについての議論にしたいと思うので、しばらくの間は、お金が足りないとかという話でなくて、こういう姿を持って行きたいという皆さんが共有できる目標像を議論することでやってみてはどうかと思っている。</p> <p>もちろん、そのような状況の中で様々な法制度のしがらみや金銭的なこと、あるいはこういうことをしていくためには、ここまでしか補助が出ないというリアルな話もあるかもしれないが、それをどのように崩していきながら、我々の次の世代の人達に青森を引き継いでいくかという議論をあくまでも</p>

	<p>していきたいと思う。</p> <p>何々策定委員会というフィージビリティ(実現可能性)が必要になるので、割とここまでしかできない。</p> <p>私達はいくまでも会議なので、そのあたりについては、我々は理想を、役所としては現実をという形の話の中で進めていけたらと思っている。私も今、念じておくのでよろしく願います。西さんもそれでよろしいか。我々、理想を話して良いということである。</p>
西委員	<p>最後に一つだけ、先程、盛岡支社の部長からは、ラビナの件に関して現時点では検討されていないということであったが、私ども商工会議所の中にラビナなどを運営管理している青森商業開発というJRグループの会社があるが、その方々と話していると、タイミングが合えば一緒にリニューアルしてしまいたいという気持ちはあるようで、地元としてもそれがちょうど良い整備のチャンスになるのではないかと考えているので、我々としても何か協力できることがあればするという話はしているところであるので、もし、よければ次の会議からでも青森商業開発のどなたかにオブザーバーでも良いし、参考人みたいな形で来ていただければと思っている。</p>
北原座長	<p>参考人という言葉を使うと身構えると思うので、そういう言葉をやめて一緒に議論に加わっていただく人ということで、意識を持っている有識者ということに来ていただくのも良いと思うが、次回の議論する検討する内容にもよるが、もちろんそういう方に来ていただかないと方針を決めるというより、我々はそちらの方に行くのであれば、その議論をしなければいけないということをおアドバイスを出す立場だから、皆さんからそういう意見があればお願いしたいと思う。</p> <p>今、次回、2回目が良いのか、3回目が良いのかわからないので、まずは進めていくソフトに関係する方々についても色々と意見を聞いたりしようということだと思っているので、私達が決めるものではないので、どのようなことを考えているか、悩みなどを共有しながら、我々検討会議と一緒に頑張っていきたいと思うので、了解した。そのあたりは、また市役所と相談しながら考えたいと思うので、よろしく願います。</p> <p>他にどうか。1回目だから、踏み込んでというか、この内容はどうだということよりもまず、同じ土俵、同じスタートラインに立ってではなく、前回はきちんとこのように作ったものがあるから、間は空いたけどこれを基にしながら良いものをつくって行こうという、いよいよアクションに向けた動</p>

	<p>きが始まっていくのだということなので、我々としても前回議論した内容について、今回はそれを実際に見ていく、動かしていくという話、中心市街地もある種の正念場を迎えているので、そういうこともあって、加藤さんも委員会に入っていると思うが、一緒に動いていくということを今日は再確認という話なので、皆さんの異論がなければ、こういう形に進めて行こうということである。ただ、先程話したように色々な形態が考えられていると思う。</p> <p>この会議はある種の進捗状況を聞いたり、進めていくためのある種の新しい情報を入れる場だと思うが、先程も話したように、ここから何かのワーキングが生まれたり、地域の方達の意見交換をする場が生まれていたりするように動かないと、このホテルの一室で議論し、いくら新聞で出しても、テレビで出しても共有することにならないので、少し多面的な情報共有が出来るような仕組みをこの二年間くらいで詰めていけば、その形で出来た仕組みが実際に建物が出来て、街が出来ていった時の、前にも議論あったが、人の参加する仕組み、マネジメントしていく市民組織などにも影響すると思うので、市民の参加のあり方、建物を造っていく、まちをつかっていく段階で必要な参加もあるが、出来た空間をしっかりと楽しみながら、マネジメントを協力し、参加というのが本来が一番大事なので、そういう意識を持っていただくためにも出来ただけではなく、出来るのだが、皆さん何が出来るのかという話を一緒に議論できるような場が、個人的に遠慮なく生まれたいという気がしている。</p> <p>今、市役所の建替えなど様々な計画が動いて、皆さんの関心が中心市街地に向いているので、上手く連動しながら、青森としてこのようなものを何とか10年20年のスパンの中で見ていきたい話があった。</p> <p>それに我々が、西さんの言葉を借りると理想的な姿を議論する場に参画できるのは光栄なことなので、責任もあると思うが、皆さんにも協力いただけたらと思う。</p> <p>今後の進め方として、進めていくことについては、異論は無いと思うが、進めていく上での、懸念やこのあたりはどうかということももし今日あれば、出していただければ事務局から話をしていただいて、すっきりして終わらせたいと思う。何でも結構である。小さなことでも結構であるので、お願いしたいと思うがどうか。</p>
赤石委員	私もこの会議には初めての出席ということで、色々今ま

	<p>で計画など聞いて、非常に早く実現してほしいという気持ちなのだが、その中で、青森市はコンパクトシティということで青森駅周辺の整備をしているが、様々な観光施設、ねぶたの家ワラッセ、アスパム、八甲田丸などの観光施設、それから古川市場、アウガ、これは市民・県民が利用する施設ということで、観光客・市民がここに集まるためには、鉄道、バス、タクシー、レンタカーなど、様々な形態があるが、その中で人の流れ、あるいは、公共交通機関の流れ、マイカーの流れ、そういうものを考慮した通路など駐車スペース、そのようなものを考えていく必要があると思う。</p> <p>バスについて話すと、修学旅行、団体の観光客になると、バスの利便性から、利用客も増えてきている。その中で、青森駅周辺については、前回、大きくバスターミナルの改修もしたということだが、残念ながら、貸切バスの乗降の駐車スペース、待機スペースが東口が足りないという意見が出ている。</p> <p>西口の方で、青森市の配慮をいただき、貸切バスの駐車スペースとして利用させていただいている。これで修学旅行とか団体客の降ろしたあとの待機ということで、市の方から(土地を借用して)利用しているが、利用頻度が高いという状況である。</p> <p>このようなことから、県、青森市、これからの修学旅行、観光客の呼び込みということも、新幹線開業に向けて色々なことが言われていると思う。</p> <p>それから、市民も青森駅周辺に来て様々なことをやっていただく。買い物もそうだし、図書館もある。様々な施設を利用していただくといったことも考えていくと思うが、計画の中で、進めるにあたって、私の方から一つお願いしたいが、貸切バス等の駐車スペース、待機スペースを是非現状を踏まえた上で、配慮していただければありがたいと思う。</p>
北原座長	<p>交通流動、そのようなものに全部絡んでくるということである。</p> <p>せっかくなので、まだ話していない方に、このようなことも気をつけているということで、話をさせていただこうかと思うが、石田さんどうか。何でも結構なので、進め方に関しても結構である。</p>
石田委員	<p>前回の検討委員会の方も参加させていただいた。</p> <p>私自身は障害者福祉を専門にやっており、今は青森市の障害者自立支援協議会の会長もさせていただいている。</p>

	<p>そのような意味では、障がいを持っている方などの立場に立ったところでの意見を話していけたらと思う。</p> <p>実際のところ、今、青森駅は障がいを持っている方や車イスを利用されている方が一日当たりどれくらい利用されているのか、素朴にわからないので、そのようなデータがあれば是非示しいただけたら大変助かるということと、現状そうだけど、使いにくくて車椅子の方が利用できないのであれば、そのあたりは、ニーズ調査みたいなことももっとやってみるのも、どういうところが使いにくいのか、こうしたら使い易いのか。これから高齢化率は、今 25%くらいでどんどん上がってくるので、そうすると元気な高齢者もいるけど、介護を必要としている人もこれからどんどん増えてくるので、そういう人達が使いやすいような駅、周辺になったらすごく良いと思っている。</p>
北原座長	<p>青森市は何年か前に都市計画部門で交通バリアフリー計画を作っている。そういうものは、その時作った計画ではなく、それが今のこの計画に当然反映されるので、その時に集めた資料など、それからこのように変わっているので、データも含めて議論の場に用意していただきたいというニーズだと思うので、協力をお願いします。珍田さんどうか。</p>
珍田委員	<p>タクシー協会からの視点で一つ話すと、タクシーというビジネス、観光も確かに人口としてはあるが、そのほとんどが青森市民の活用である。</p> <p>その中心というのがいわゆる交通弱者と言うと失礼かもしれないが、高齢の方々、特に新町方面、駅前方面に行かれるお客様方は、行きは多分バスか電車で行き、手ぶらで行かれるが、帰りは買い物をして戻る。このような時に、タクシーが必要になる場面が増えてくるのだが、それを考えた時に乗り場がほとんどないという状況があり、これはこの場で話すべきか、警察と相談するべきかわからないが、まちづくりということを考えれば、利用される客層、動線を含めた上で、様々な整備が必要なのかという気がする。</p>
北原座長	<p>タクシーの乗りやすいような環境づくりということであるか。</p>
珍田委員	<p>そういうことである。</p>
北原座長	<p>そのようなことも当然、駅を中心としたまちづくりという話からするとテーマに入ってくると思うので、今日は 1 回目として、それをきちんと議論させていただく。では、森内委員どうか。</p>

森内委員	<p>駅は門であるという都市計画家の大先生の言葉を借りると、やはり、交通の要である。</p> <p>先程から港とのつながりとかウォーターフロントなどの話をされているが、もう少しフェリーや客船が来る、アクセスも考えていかなければいけないし、バスプールとタクシーのあり方とその辺のスペース的な問題がこれから生じるのではないかという気がしている。</p> <p>やはり、今、分断された西口と東口がつながる、これは楽しみで仕方がない。</p> <p>また、難しいのは、文字と絵で表すと非常に具体的な形ではないものだから、これ以上のものは無いのではないかと思って、早くこれを具体化して皆さんと共に交通の要である、また逆に言えば、中心となっていく新しいこの辺を作っていくきたいと思っている。</p>
北原座長	伊香さんよろしく願います。
伊香委員	<p>前回の計画の時に、都市サービス部門のところに商業施設というのが書いてあって、既に街周辺にこんなに駅の近くにたくさんのものが A-FACTORY 含め、商店街があるのに、この部分どうかと思っていたら、非常に理想的な必要とされている都市サービス施設ということに内容が集約されている感じで、非常に検討して考えていたのだと思う。</p> <p>実際に商店街も珍田さんが話したように高齢者の方がたくさん利用されている。</p> <p>ここで様々な意見を話して、様々、良い形に集約されていて、最後、例えば市民アンケートを取る時に、「駅にこういうものがあったら良いですか。」というアンケート項目があったとすると、先程、(座長が)意識のある人間が集まる会議が有識者会議と話していたが、その意識が様々な方向を向いている市民の方がいて、そのアンケートに対して、大変失礼ながら、老朽化して、少し飽きてしまっている。新しい商業施設が欲しいと思うのが、一般市民の一般的な考え(だと思う)。</p> <p>そうするとアンケートで駅に欲しいものは何かと聞くと新しい商業施設という答えが深く考えない状態でたくさん出てくるということが十分考えられると思う。そうすると決めていく段階で、色々考えた上で出したところに、そこでひっくり返って変わってしまうことがあったりするのだろうかという懸念がある。</p>
北原座長	市民参加の問題、そこが、多数決で出てきたアイデアが一番かという話である。市民参加、市民の意見をそのまま使う

	<p>ことは違うということは結論で出ている。</p> <p>一緒に考えることだから、そのことは懸念せずに結構だと思おうし、先日、私も宮古で、地震で被害を受けた市役所を建て替えるのだが、古い施設をどうするかという市民ワークショップを70人、80人集まって実施したら、若い人達は何と書いたか。ディズニーランドとジャスコに来て欲しいと書いてあり、一喝した。もう少し、真面目に考えよう。違う言葉を使うようにと話したら、楽しいところ。よし、楽しいところなら良い。そういうものというのは意識がないに関わらず、皆さん考えてしまうことだから、悪いわけではない。</p> <p>でも我々は、それも見ながら皆さんで考えていく。アンケートはもちろんするが、その結果の見方というのはただ数字をおくのではなく、皆さんで考えようということを今日ここで話しておきたいと思う。続けてどうぞ。</p>
伊香委員	<p>あともう一つ、商店街の方では、一般のお客様にツアーという形でよく尋ねてきていただいている、最近子育て中のママさん達も商店街をよく利用している。</p> <p>これは私どもが原稿を書いたのではなく、ママさん達が実際に商店街を利用して、このように便利だ、このように使いたい、使っているというものをつい最近出来た冊子である。</p> <p>是非駅の中の今からサービス機能を考えることについても全く私からの原稿ではなく、彼女達の目線で、こういうところを便利に使っているというのが、本当に自然に書いてあるので、利用いただけたらと思っている。</p> <p>それから、外国客船とかたくさん来ている。そして、青森は新幹線開業に向けて、街歩きの観光ボランティア事業も大変充実しているし、ボランティアさんも大変充実している。</p> <p>ただ、この拠点とか機能が無いので、横の連携がなく、毎回毎回それぞれサービスがバラバラとなっているのを今ここに書いてあったが、駅の中にこのようなサービス機能の拠点として、この方達のまとまっていられるような場所が出来れば、様々なことに対して、非常に発展的になっていくと思うので、そのあたりも大変期待して見させていただいた。</p>
北原座長	<p>人と人をつなぐという目的があったわけで、そのようなものに必要な空間、私も今回整備の中で、考える余地があると思うし、せっかくなので、こういうマップを作っている方々も先程の参考人ではないが、色々意見を言っていただくために呼んでいただいて、そういう情報を得る事も絶対プラスとなるので、考えていただきたいと思う。では、大津さんお願</p>

	<p>いする。</p>
大津委員	<p>前回の青森駅を中心としたまちづくり基本計画検討委員会では参加して委員をさせていただいたが、もう3年も経つのだということで、結構その時のことが忘れ去られており、自分が新町というか駅周辺に住んでいないということと、青森駅をあまり利用していないという現状もあり、非常に今回、また読み直しても、なかなかこうであったかと思ひ直しながら、紐解いている。</p> <p>一番気になったのは、子育て世代が減っている。子育て世代がなかなか集まれないというか、子育て世代というのは、意外と車で移動して、なかなか駅方面には来ない。</p> <p>実は私の娘に孫を連れてどこに行くのかと聞くと、どうしても五所川原方面に行ってしまうたり、なかなか駅には集まってこない。駅を中心市街地には出てこないということがある。</p> <p>最近でも、アスパムで様々なカレーのイベントや鍋のイベントであるなどしているの、その機会には出てきているようだが、やはりそういう情報を出してはいるのだろうが、なかなか若い人達の目には止まらないのかという気がしているので、もっともっとわかるような情報を出していただきたいと思う。</p>
北原座長	<p>有識者と言われてはいるけど、それほど意識がまだ強くないという話を正直に話していただいたので、市民の方々のある種の代表だと思うので、そういう意味でも、皆さんに知ってもらうためにやっていこうということで、よろしく願います。では、青い森鉄道の木村さん願する。</p>
木村委員	<p>私も今回初めて参加させていただき、これまでの計画を勉強する意味で読ませていただいた。我々は鉄道事業者である。</p> <p>青森駅が開業して、4年経った。色々やってきた中で、やはり乗ってもらわなければ、我々としても経営が成り立っていかないの、その中心となるのは、通勤・通学、このような方達が持続的に利用していただくというのが一番のところだと思っている。</p> <p>今回の計画の中で、やはり青森駅がいかにか人が集まり易く、集いやすいといったことにつながっていけば、利用者の向上、増えていくことにもつながっていくし、全てにおいて、良い方向に回っていけるものだと思っているので、あとは駅の機能をどうするか、それはまたこれから色々議論をする部分があると思うが、そのような駅の機能の部分でもやはり、乗</p>

	<p>り継ぎ、駅の中の移動などが、利便性などしっかり意見をお互い調整して、やっていかなければいけない問題だと思っているので、引き続き、どんどん話し合わなければいけない話だと思う。担当者レベルやこの会議でなどで。</p>
北原座長	<p>どうしても駅というときに JR と協議してしまうが、大きな存在でもあるので、今後ともよろしく願います。</p> <p>では、県の交通政策課の千葉さん願する。</p>
千葉委員	<p>私も初めて参加させていただいたが、まず、平成 24 年 2 月のまちづくり基本計画を策定された委員の皆様や市の皆様に敬意を表したいと思う。</p> <p>コンセプトも非常にしっかりしていると思うし、このような形で、具体化がどんどん進めば良いと思っている。</p> <p>やはり駅というのは、街の顔であり、青森市は県都であるので、そういう意味では、交通だけでなく、商業や観光、交流の場など、そのような形でにぎわいの中心とすることを皆さんで検討する、知恵を出し合うというのは非常に有意義なことだと思っているので、参画させていただきながら、皆さんと協力していきたいと思っている。</p> <p>交通という意味では、基本計画の中にも書いてあるが、やはり JR だけでなく、青い森鉄道もあるし、バスもあれば、タクシー、レンタカーもあれば、中には自転車という話も書いてあったが、様々な交通が集約している場所であるので、スムーズに乗り換えが出来るなど、機能面の動線確保は非常に大切だと思う。</p> <p>ソフト面でも、わかりやすい表示など（計画の）25 ページに書いてあるが、表示サインの充実などその辺は非常に重要なのかと思う。日本語と英語だけで良いのかという問題もあると思う。ソウル便も国際的にあるし、この前、私が駅前に行ったら中国語が飛び交っていて、台湾からのチャーターなども来ているし、今後は外国人の方も個人客も増えると思うので、そういう意味では、ソフト面の細かいところにも気を配った、話し合いが出来れば良いと思っていたので、よろしく願する。</p>
北原座長	<p>国際化も想定するべきであるという意見があった。</p> <p>国の方から、脇坂さんがきている。</p>
脇坂委員	<p>立場としては、東北のまちづくり全般を応援する整備局の都市調整官でもあり、また私も平成 15、16、17、18 と 4 年間、事務局側に座ってまちづくりをやってきた立場として、7、8 年経ってどうなのか、色々思うところがある。</p>

まちづくり基本計画も3年前、その時の議論に多少参加させていただいたということもある。3年も経ってしまったということなのだが、実は3年は大きな話で、その3年で世の中は変わっている。どのように変わっているかという、青森市が消滅可能性都市と言われているくらいの厳しいことを突きつけられているということである。

私が部長だった頃は、新幹線がもうすぐ来るのだから、どう新幹線開業効果をまちなかに吸い寄せるといふようなところで、ワラッセを何とかつくるなど、様々なことをした。

ワラッセをやるにしても、単に観光振興というだけではなく、アスパムと駅をどうつないでいくかという話、ねぶた観光の通年化という話もあったし、駅から海が見えるようにするといった話など、それに併せて駅前広場を整理して、交通も利便性高いものにしようとして一石五、六鳥を狙ったようなプロジェクトだったかと思う。集合住宅を何とかしなくてはいけないということもあったのだが。

結果として、ワラッセはそれなりにあまり税金をつぎ込まなくても、多くのお客さんが入場料を払って、そんなに市の財政が痛まなくても、中心市街地の活性化効果が図られるなど様々な効果が出てきて良かったと思っている。

そのようにまちづくりを考えていくと青森駅の構想は、まだ少し発想が古いかと思う。

新たに都市機能を駅に増やすという発想で出来ているので、加藤さんから商業施設はいらぬのではないかという話があったが、これからの人口減少社会で、青森市が抱えている課題を、ここの駅のこういうことをすることによって解決していこうという発想が少し要るのではないか。

それに自由通路のお金が掛かる訳なのだが、これだけお金をつぎ込む訳だから、コストに値するくらいベネフィット(恩恵)が相当無いといけないと思う。

だから、東西をつなぐだけだと足りない。そういう意味で言うと都市機能をどう考えるかということが非常に重要であって、今、青森市で抱えている課題が色々ある。

特に財政的な場合もあるし、そういったものをここにこういうものを作ること、場合によっては、他のエリアにあるものをひとつに集約するという必要かもしれないが、そういったことによって解決するのだというような意思を示していただくことが、実現に向けて非常に重要なことかと思う。

新聞報道でしか見ていないが、まずは自由通路からという

	<p>形で見ているが、委員からも意見が出ているように、最終形があってこそ自由通路でないと自由通路の意味が無いと思うし、その最終形を考えるに当たっては、青森市がこうやって生きていくのだという意味が、駅周辺や新町商店街など狭いエリアではなく、全市的に、場合によってはオール青森県を視野に考えるくらいの発想があってもむしろ、それくらいやらないと勿体無いプロジェクトというように思っている。</p>
北原座長	<p>青森にいた方であり、こういう会議に最後に国の方は、穏便なことしか言わないが、結構踏み込んだプレッシャーを与えて頂いた。これから楽しくなるので、是非ずっとお付き合いいただきたいと思う。</p> <p>最初に今日、加藤さんや西さん、途中で聞くために、齋藤さんにもコメントをいただいたが、一連回ったのと、加藤さんが最初に話したので、あの時、話していなかったけど、一言くらいあるという話であったら。あるいは、齋藤さんも西さんもいかがか。一言くらいずついただいて、終わりにしたいと思う。</p>
加藤委員	<p>今、様々な委員の方々から、色々な意見が出た。</p> <p>そして、市民ニーズに必要で、市民アンケートをしたり、オブザーバーの意見を聞いたら、すぐ、そちらになびくなど（市民意見が）大きくなったら、そちらを優先するのかということに対して、座長がきちんと明言してくれたが、そういう部分をきちんと整理して、今、脇坂さんが話しているような新しい機能をつけた市のランドデザインを構築していくというのが、私共、有識者会議の役割ということで、認識してよろしいか。</p>
北原座長	<p>結構である。齋藤さんいかがか。</p>
齋藤委員	<p>前回の基本計画を作る時も、弊社のスタンスというか、その辺も話したと思うが、やはり（JR東日本の）経営構想の中で、駅を中心としたまちづくりを自治体と連携を強化していくという方向性は、ビジョンの中でも強い思いがあるので、地域が活性化になれば、当然お客様も増えるし、その辺の利害がちょうど一致しているところであるので、協力してやっていきたいと考えている。</p> <p>併せて、どこの期限を目標としてやっていくのかという工期の部分が、その辺を意識して進めていくことが必要でないかと思う。</p>
北原座長	<p>やはりそうしないと動かない。</p> <p>西さん、もし何かあれば。</p>

西委員	<p>基本計画の中を改めて見ても出てくるのだが、一体性や一体的なことを全体で考えなければいけないということが、この計画に書かれているので、是非、全体像作りという所まで進めていきたいと思った。</p> <p>あとは、他にも海への眺望とか海の見える北の駅などそういう言葉があちこちにあるので、やはり海というのが青森市民にとって非常に重要なものだと考えているので、その辺をやはり具体化をしていきたいと思っている。</p>
北原座長	<p>1回目ということで、今回、皆さんに意見をいただいた。</p> <p>私も委員の一人としてもし言うとするれば、様々な主体の方々が、駅を中心としたこのエリアに自分の場所を持ちたいと思うような場所をどれだけ作っていくかということがメインだと思う。</p> <p>売りたい人は、売る場所であるし、先程、伊香さんが話していた方々、ボランティアの人などが、いつもいられるような、我々はどうしても活性化という、お店を作ろうなどだけではなく、自分達がそこにいて居心地の良い場所、あるいは、今日行ってみたいと思う場所を色々な多様な場所があるので、その場所をこのエリアにどれだけ散りばめられて、なおかつ、それを線で結び付けられるかというのがあると思う。</p> <p>そのためにハード、組織、人のネットワーク、たくさんあると思うし、そういう意味で、そういう場所が出来たら、先程、大津さんが話していたが、五所川原に行く人が来てくれると思うので、そういう我々自身も楽しめるような、観光客だけではなく、市民も今日行ってくると言いたくなるような、当時、アウガが出来たときは、結構そういうものがあって、高校生がたくさん勉強していて、今でもそうだが、場所をもう一遍再編集していくということを私から言いたいと思う。</p> <p>では、今日はちょうど予定の時間となった。</p> <p>このようなスタイルで、これから積極的な議論を進めていく。あるいは、様々な人を巻き込む。あるいは、外に出て行く、そのようなことをしながら、進めていくことへの皆さんからサジェッション（提案）もあったし、いくつかのポイントも出していただいたので、1回目の私の方の進行はこれで終わりにさせていただきます。</p>

5 閉会

次回会議は、座長と事務局が相談の上、開催することとし、閉会。